

2025明治安田J2リーグシーズン終了報告

いわき芸術文化交流館アリオス

12/1(月)



＼いわきFCが市長表敬訪問／

J2リーグ3年目となった昨季は、20チーム中9位の成績で終えました。田村雄三監督は「次の10年へ。皆さんと共に歩み、共に喜び、そして感動を届けられるよう、引き続き精進いたします」と述べ、山下優人選手は「今季出た課題、反省を生かし、さらなる高みを目指していきたい。応援よろしくお願ひします」とあいさつがありました。いわきFCからは選手のサイン入り公式球、市長からはいわきライキ(お米)の贈呈が行われました。

「ボクとわたしのオーケストラ」

いわき芸術文化交流館アリオス

12/11(木)



＼子どもたちへオーケストラ公演を届けよう／

東京都交響楽団によるオーケストラ公演が、市内と双葉郡の小中学生約3,200名を招待して開催され、子どもたちは生のオーケストラが奏でる音の世界に目を輝かせていました。同公演はコロナ禍で中断した年もありましたが、震災後から継続的に開催され、今年で14回目となります。オーケストラを伴奏に「ビリーブ」を合唱する場面では元気よく声を合わせ、忘れられない思い出をたくさんの方々と一緒に共有していました。

写真が語る「いわき」の歴史

鉄道施設から新しい街へ

いわき地域学会 小宅幸一

昭和30年代、内郷駅は石炭貨物で、平駅もホームが少ないにも関わらず貨客が増えて容易に列車の増発ができず、いずれも飽和状態になっていました。長距離貨物輸送面では、まだ自動車よりも鉄道が優位な時代でした。

これを解消するために考えられたのが、平と内郷の間に広がる水田地帯を埋め立てて、貨物をさばく操車場を建設することでした。昭和42(1967)年12月には内郷貨物駅(後にいわき貨物駅)が開業。このなかに、発着線、仕分け線など28本もの軌条が設置され、駅の広さは14.3ha、長さが2.5kmにも及びました。

しかし、自動車貨物輸送に圧され、昭和62(1987)年2月末で廃止となりました。

跡地の利活用にはさまざまな提案が出されました。最終的に集合住宅、市総合保健福祉センター、内郷消防署などに生まれ変わり、現在に至っています。



■写真1 南方に向かって見る「いわき貨物駅」

[昭和61(1986)年9月 いわき市撮影]



■写真2 新しい街に変貌した操車場跡地

[平成27(2015)年7月 小宅幸一撮影]